

持続学を拓く

中部高等学術研究所：サステナビリティ研究会へのお誘い

21世紀のわれわれの主要課題がサステナビリティを価値基準とする社会を実現することであることは、今や世界の共通認識であると言っても過言ではないでしょう。

サステナビリティは大変幅広い概念であり、環境問題のみならず、高齢社会への対応など、現代が直面する様々な課題が含まれます。われわれの社会のサステナビリティを追求することは、21世紀を生きる学生の皆さんの考え方や行動、そして就職など人生設計にも大きな影響を及ぼすはずです。

このような考えに立って、この研究会では、教職員の皆さん、学生・院生の皆さん、社会人として大学で学んでおられる皆さん、そして広く一般の方々にも参加していただけるよう企画を立てていきます。

是非、皆さまのご参加をお願いいたします。

第10回サステナビリティ研究会

ESD: Education For Sustainable Development 持続可能な発展のための教育

テーマ「近代と未来のはざままでー未来観の変遷と21世紀の課題」

2011年の東日本大震災と福島原発事故は、従来の価値観、すなわち、科学万能主義、市場至上主義、合理主義、進歩主義など、近代が築いてきた価値観の再検討をうながしている。本研究会では前半部分で、「サステナビリティ」という概念を未来観の変遷をたどりつつ再検討し、21世紀の課題について展望する。また、研究会後半では、日本における「近代化」の負の側面、すなわち貧困化、少子化、ジェンダーギャップといった課題の根底には、日本社会固有の「標準化」圧力ー「標準世帯」を基準とした社会制度、「横並び」志向ーがあることを示す。「ガラパゴス化」を深める日本の諸課題について、過去20年の欧米における生活の変化、ヨーロッパ人文主義が培った教養教育を手がかりに、新たな提言をおこないたい。

演 者：桃井 治郎（中部大学人文学部・中部高等学術研究所 講師）

演 題：未来観の変遷とサステナビリティ

ディスカッサント：高 英求（中部大学国際関係学部 教授）

演 者：玉田 敦子（中部大学人文学部・中部高等学術研究所 准教授）

演 題：「近代」の限界と展望ー家族・教養・ダイバーシティ

ディスカッサント：長島 昭（中部大学中部高等学術研究所 客員教授）



新刊紹介：桃井治郎・玉田敦子（編）
『近代と未来のはざままでー未来観
の変遷と21世紀の課題』（風媒社）

日時 2013年7月10日（水） 15時30分～18時30分 来聴歓迎
場所 中部大学リサーチセンター2階大会議室（愛知県春日井市松本町1200）
主催 中部大学中部高等学術研究所
お申し込み・お問い合わせ 0568-51-9959(内線 5709)
e-mail chukoken@office.chubu.ac.jp